



学校だより

〈学校教育目標〉自ら学び たくましく 心豊かな子

横浜市立長津田小学校

6月号【第647号】

令和8年5月29日

校長 佐藤 正淳



響き合う未来へ～技術の進化と長津田から始まる新たな教育の風～

「先生、AI って、人間の仕事を全部やってしまうんですか？」

ある子がぼつりつつぶやいたこの言葉が、今も頭の中に残っています。子どもたちは、大人よりずっと敏感に、時代の変化を感じ取っています。新緑がまぶしく、初夏の風が校庭を駆け抜けるこの季節に、保護者・地域の皆様への日頃のご支援に心より感謝を申し上げながら、今こそ私たちが向き合うべき問いについて、お話しさせていただきます。



EDIX東京2026:全国へ発信した「長津田の覚悟」



先日、東京ビッグサイトで開催された日本最大級の教育 IT 展示会「EDIX 東京」に登壇しました。全国から何千人もの教育関係者や IT 企業が集うこの場で伝えたかったのは、「AI に任せられることは AI に任せ、そこで生まれた時間を、子ども一人ひとりと向き合うことに使う。」これが、長津田小学校の覚悟であり、ビジョンです。「前例がないから」と立ち止まるのではなく、「よりよくするために、まずやってみる」という思考に、大きな共感の声をいただきました。その反響は、私たちの実践が全国の学校にとっての一筋の光になれるかもしれないという、大きな責任と勇気を与えてくれました。



EDIX東京2026での様子



生成AI:いよいよ子どもたちの番へ



本校は今年度、横浜市の「生成 AI パイロット校」として、先進的な授業づくりに挑戦していきます。まだ、生成 AI を使うための環境と指導のあり方を考え始めた段階ですが、今年度中には、いよいよ子どもたち自身が AI と向き合う授業が始まっていきます。

AI は、これまで手を挙げられなかった子も含め、一人ひとりのアイデアをカラフルに開花させる強力な窓になると期待しています。同時に、AI の出力には誤情報が含まれることもあり、情報を批判的に読み解く力や、情報モラルの育成は、これからの授業の中心に据え続けていきます。



再認識! ～人間にしか灯せない火～



先日、アメリカのある企業が、人型ロボット(ヒューマノイド)が人間と並んで荷物の仕分けをリアルタイムで行う映像を世界へ発信しました。ロボットは自ら状況を判断し、人間と寸分違わぬ動きで作業をこなしていました。AIが画面の外に出て、「体」を持った時代——「フィジカルAI」の到来です。今の子どもたちが社会に出る頃には、こうしたロボットと当たり前前に協働する社会が現実になっています。

では、そんな未来で最も価値を持つのは何でしょうか。計算の速さでも、知識の量でもありません。友だちの小さなつらさに気づいて「大丈夫?」と声をかける優しさ。みんなの「得意」と「苦手」をパズルのように組み合わせ、一緒に新しいものを創り出す協働の力。そして「何のためにこの技術を使うのか」を問い続ける、人間ならではの想像力と倫理観。

テクノロジーがどれだけ進化しても、その火を灯し続けられるのは、人間だけです。だからこそ私たちは、技術を恐れて遠ざけるのではなく、大人が率先して未知の挑戦を楽しむ姿を子どもたちに見せていきたい。そして、安心して失敗し、また立ち上げられる「豊かな森」を、皆様と共に育ててまいりたいと思います。

未来を創る子どもたちとともに、今月も一步一步、前へ。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。